



慶應義塾大学ビジネス・スクール

株式会社マキタ (B)

5

—社長 榎田 實：「社長交代」の意味—

ビジネス雑誌のインタビューを終えて、榎田 實氏は、あらためて自分が社長を継いでから今日までのことを振り返っていた。榎田氏が株式会社マキタの社長に就任したのは1990年。榎田氏が41歳、父親が70歳の時だった。もうすぐ自分もその父親と同じ年齢になる。マキタの世代交代を真剣に考えなければならないと思うようになってきた。

10

「会社を受け継いで25年か。当然のように父親から会社を継いできたが、息子たちはどう考えているんだろう？自分たちの将来と会社の将来。世代交代について話してみるかな。」

15

「社長」を受け継ぐ

1. 管理工学から造船企業へ就職

20

榎田 實（まきたみのる）氏は、1948年に高松市で生まれた。船舶用ディーゼルエンジンを製造する株式会社マキタの創業者（久氏）は、榎田氏の祖父となる。子ども時代に、社内外の大人や、父親の友人から「跡継ぎ」と言われ、「3代目になるからしっかりしなければならない」と洗脳されながら育った。

大学は私立K大学工学部に進学した。受験の時は、工学部の機械工学か管理工学のどちらに行くか迷った。当時、機械工学は学生数が倍で、まだ新しい学問領域の管理工学はその半分しかいなかったが、榎田氏が選んだのは管理工学だった。大学時代は、普通の学生と変わらない生活を送っていた。

25

このケースは株式会社マキタ社長榎田裕氏と会長 榎田實氏からの全面的な協力を得て作成した。謝意を表す。ケース作成者は高木晴夫、鶴ヶ谷理子、吉澤康代、反田和成である。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクールまで（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は <http://www.bookpark.ne.jp/kbs/> から。

30

Copyright © 高木晴夫、鶴ヶ谷理子、吉澤康代、反田和成（2017年12月作成）